



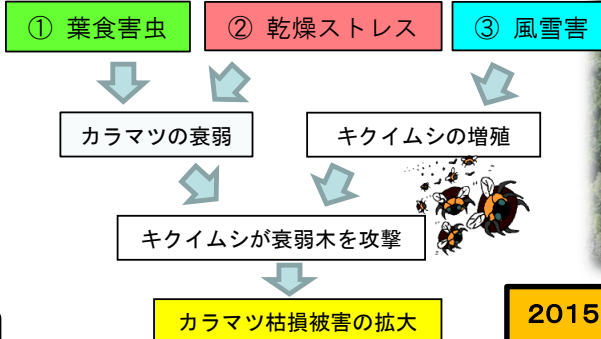
カラマツヤツバキイムシ大被害の発生要因の分析

林業試験場 企画調整部 企画グループ 小野寺賢介
 保護種苗部 保護グループ 徳田佐和子、和田 尚之、石濱宣夫
 森林経営部 経営グループ 滝谷 美香

研究の背景・目的

カラマツ大量枯損の原因を探ることで、今後の大被害を未然に防ぐことを目指しています。

今回は3つの要因について分析しました



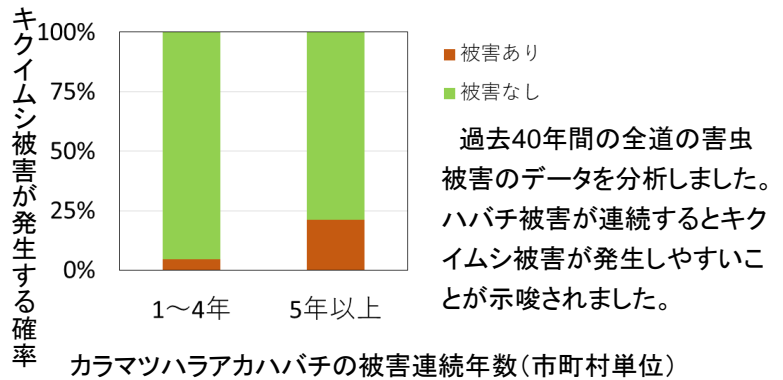
研究の内容・成果

① 葉食害虫



カラマツハラアカハバチの大発生が

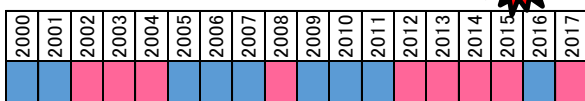
2000年頃から道東にも拡大しました。



② 乾燥ストレス

被害地は**4年連続で乾燥年**

大量枯損発生



各年の5~7月の乾燥度合いを示しています

■ : 乾燥年
 ■ : 湿潤年

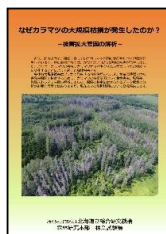
乾湿の判定は、降水量と蒸発散量の収支から算出したSPEIという指数を基準にしています。

被害地では3つの要因が重なっていました。

各要因についてさらなる分析が必要ですが、ハバチ被害と乾燥年が連続し、加えて風雪害が発生した場所では、キクイムシ被害の大発生に警戒が必要なことが示唆されます。

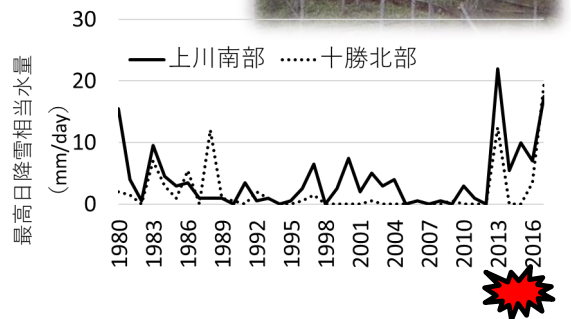
パンフレットもご覧ください

林業試験場のホームページで公開中です。乾燥地域を示した北海道マップなども示しています。



③ 風雪害

2013年に**過去最大規模**と思われる雪害が発生



各年の10月中に1日に降った雪の最大値を示しています。葉に付着した雪の重みでカラマツに折損・倒伏被害が発生しました。大量枯損の2年前から大量の餌でキクイムシが増殖していたと推測されます。